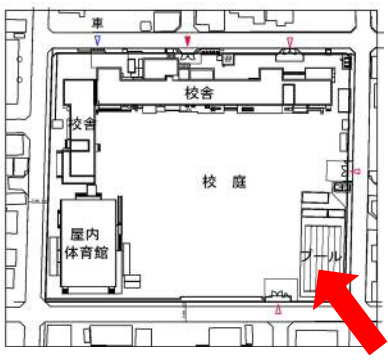
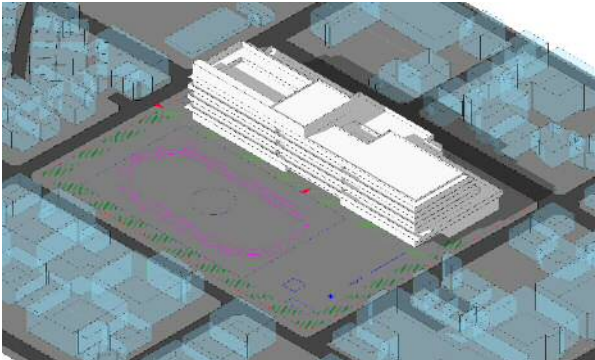
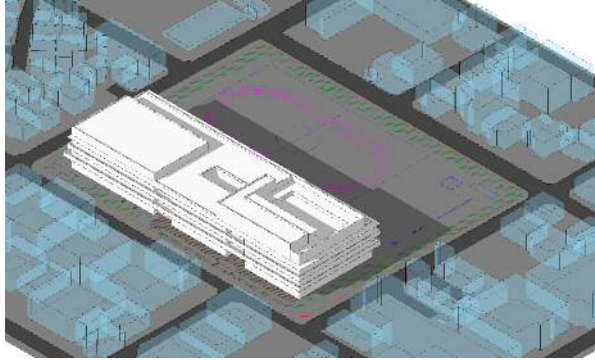
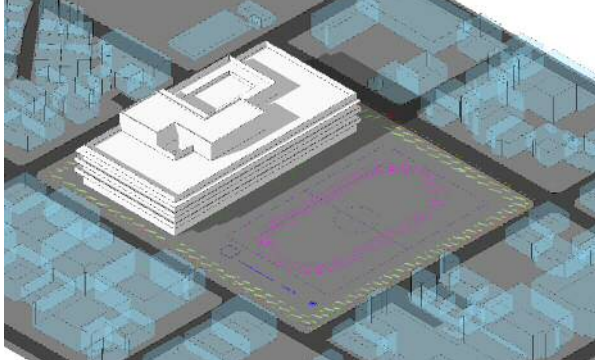


1. 新校舎配置の決定（確認）
2. 平面計画・断面計画（確認）
3. 校庭舗装 配置図・比較表（案）

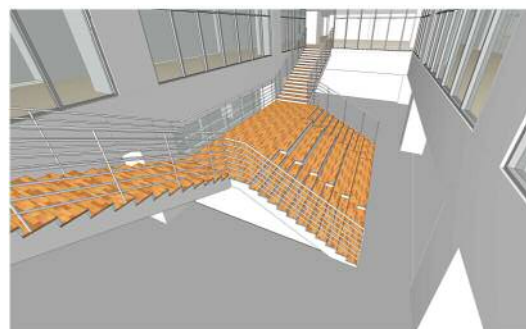
■校舎の配置比較を下表の通り行う。

既設（旧鹿浜中学校）		A案(北校舎案)		B案（南校舎案）		D案（西校舎案）	
							
計画階数		4階建て（普通教室2階～4階）+屋上プール階		3階建て（普通教室1階～3階）+屋上プール階		3階建て（普通教室2階・3階）+屋上プール階	
計画面積		約9,107㎡		約8,380㎡		約8,980㎡	
平面計画	普通教室の環境	南：日当たりがよい（南面の良好な採光）	○	南：現状、南街区は低層建物なので日当たりがよい（南面の良好な採光） 南側街区の敷地転用が行われた場合、高層の建物が建築できるため、日当たりが悪くなる可能性がある。	○	東：午前中は日が入る（前方斜めからの入射となる）	△
	特別教室・多目的教室の環境	南・北・東：安定した採光	○	北・東：安定した採光	○	南・西：日中日当りは良いが、午後西日がさす	△
	日常の児童・職員の移動	4階	△	3階	○	3階	○
	防犯性	低学年を含め2階以上にいる為、突然の不審者への対策の有余がある。	○	低学年が1階にいる為、突然の不審者への対策の有余がない。	△	低学年を含め2階以上にいる為、突然の不審者への対策の有余がある。	○
屋外計画	校庭の広さ（緑地面積等含む）	約5,100㎡（約5,800㎡）	◎	約5,100㎡（約6,100㎡）	◎	約5,000㎡（約5,800㎡）	○
	校庭の配置・向き	南 校舎による影は発生しない	◎	北 冬場は校舎の日影が落ちる	○	東 午後に校舎の影が落ちる	○
周辺地域との関係性	日影	日影は落ちるが、現状の日影の状況と大きく変わらない	○	近隣への影響は最も少ない。 一部の東街区へ以前と違い夕方の日影が発生する。	○	日影は落ちるが、現状の日影の状況と比べると、東街区と一部の北街区への日影が減少する。	○
	校舎からの騒音（音楽室等特別教室）	特別教室は北街区に近接する。現状からの変化は少ない。	◎	校舎は南街区に近接する。	○	校舎は西側街区に近接する。	△
	プール・体育館からの騒音	北街区に近接する。現状からの変化がある。	△	南街区に近接する。現状からの変化は少ない。	○	西街区に近接する。現状からの変化がある。	△
	校庭からの騒音（体育・運動会）	校庭は東西街区・南街区に接する。現状からの変化は少ない。	○	校庭は東西街区・北街区に接する。現状からの変化が大きい。	△	校庭は東街区・南北街区に接する。現状からの変化が大きい。	△
	視線影響	特別教室の視線が北側街区へ影響あり。	○	普通教室の視線が南側街区への影響する。	△	特別教室の視線が西側街区へ影響があり。	△
	現状からの環境の変化	校舎位置が現況に近く、環境の変化が少ない。	◎	校舎位置が反転し、周辺街区の環境が変わる。	△	校舎位置が大きく変わり、周辺街区の環境が変わる。	△
総合評価		4階建となる。 教室・グラウンド共に陽あたりの良い計画。 既設の中学校とほぼ同じ配置なので、周辺地域への建物影響の変化が少ない。 日影規制の為、建物北側にある程度空地が必要となる。	◎	3階建とする事が出来る。 建物による日影の影響は近隣には少ないが校庭が冬場日影になる。 現状は教室の日当りは良いが将来的に日当たりが悪くなる可能性がある。 校舎位置が反転し、周辺街区の環境が変わり、違和感が生じる可能性がある。	○	3階建とする事が出来る。 校庭が比較的整形となる計画。 教室の環境は普通教室・特別教室共に他の案に比べ劣る。 周辺街区の環境が変わり、違和感が生じる可能性がある。	△
凡例： ◎ ○ △ 優れる ←→ 劣る							



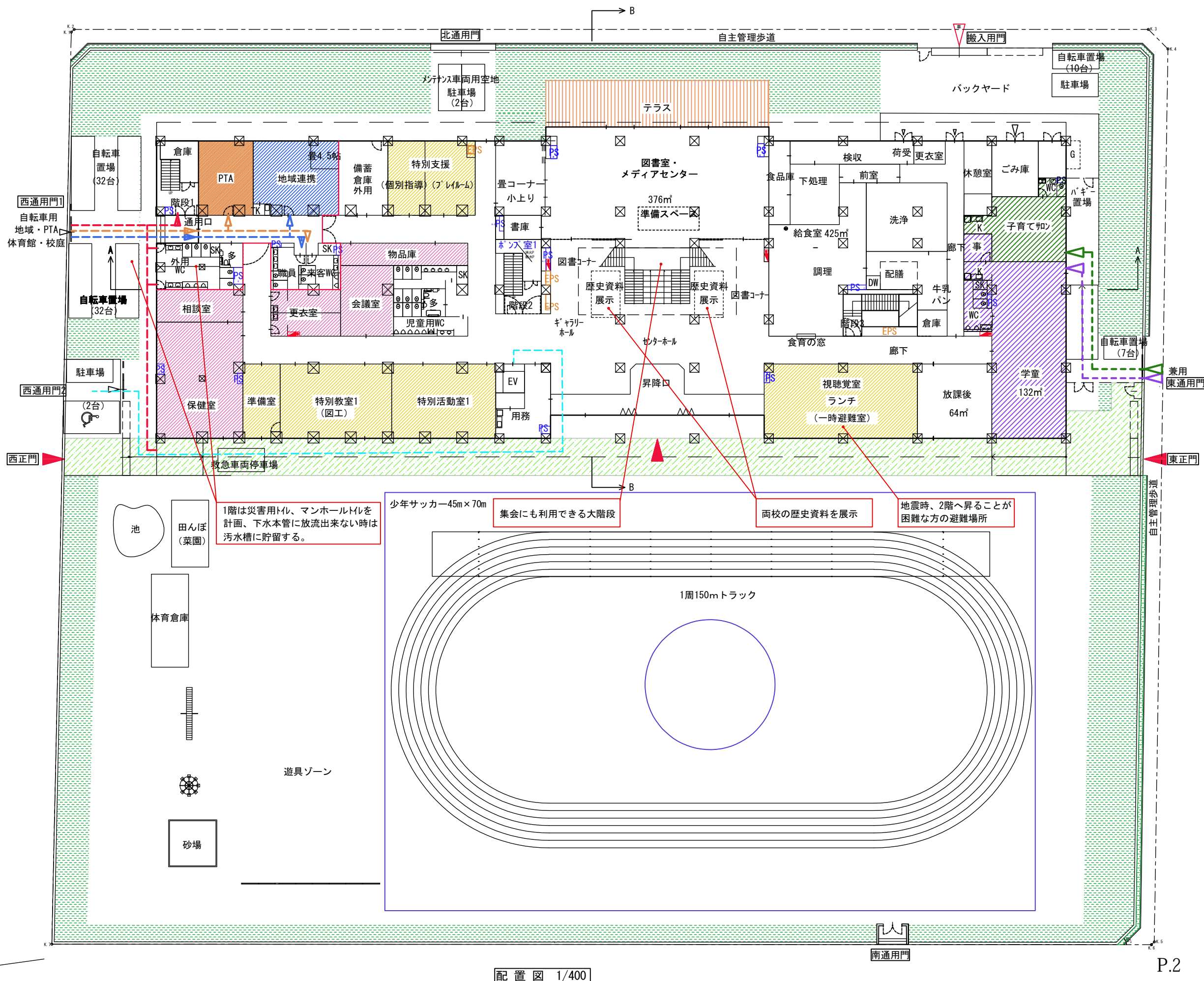
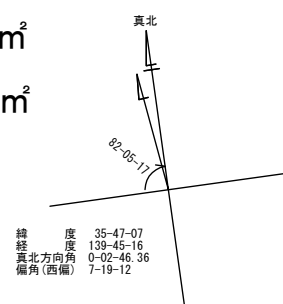
- 凡例
- 休日開放時：区画ライン
  - 体育館利用者動線
  - 学童利用者動線
  - 子育てサロン利用者動線
  - 地域連携利用者動線
  - PTA室利用者動線
  - 車椅子利用者動線
  - 児童入り口
  - 車両入り口
  - 普通教室
  - 特別教室
  - 管理諸室

計画大階段 イメージパース



大階段イメージ

1F平面図 3,097㎡  
延床面積 9,107㎡  
校庭面積 5,100㎡



配置図 1/400

配置図・1階平面図 (案)

2020.01.29

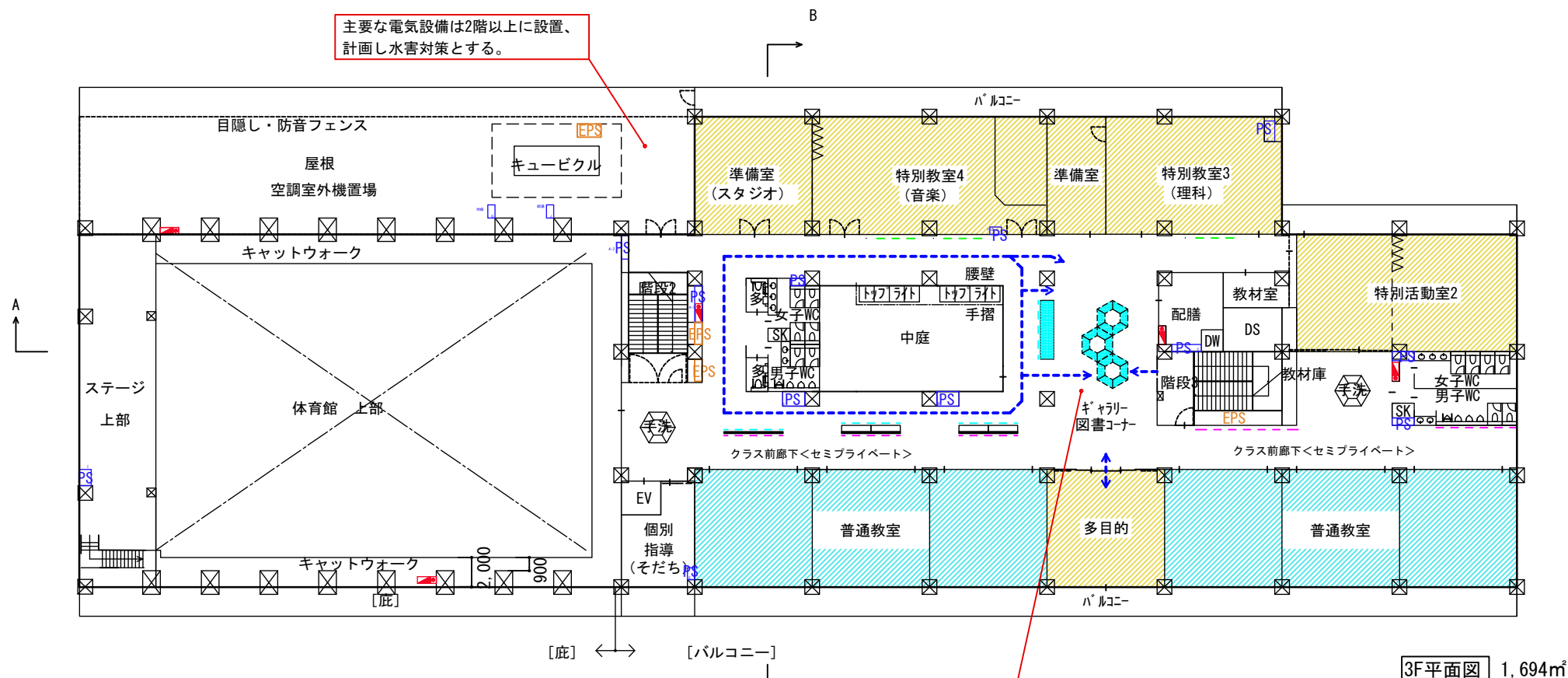
北鹿浜小・鹿浜西小統合に伴う設計等業務委託





廊下（オープンスペース）展示イメージ

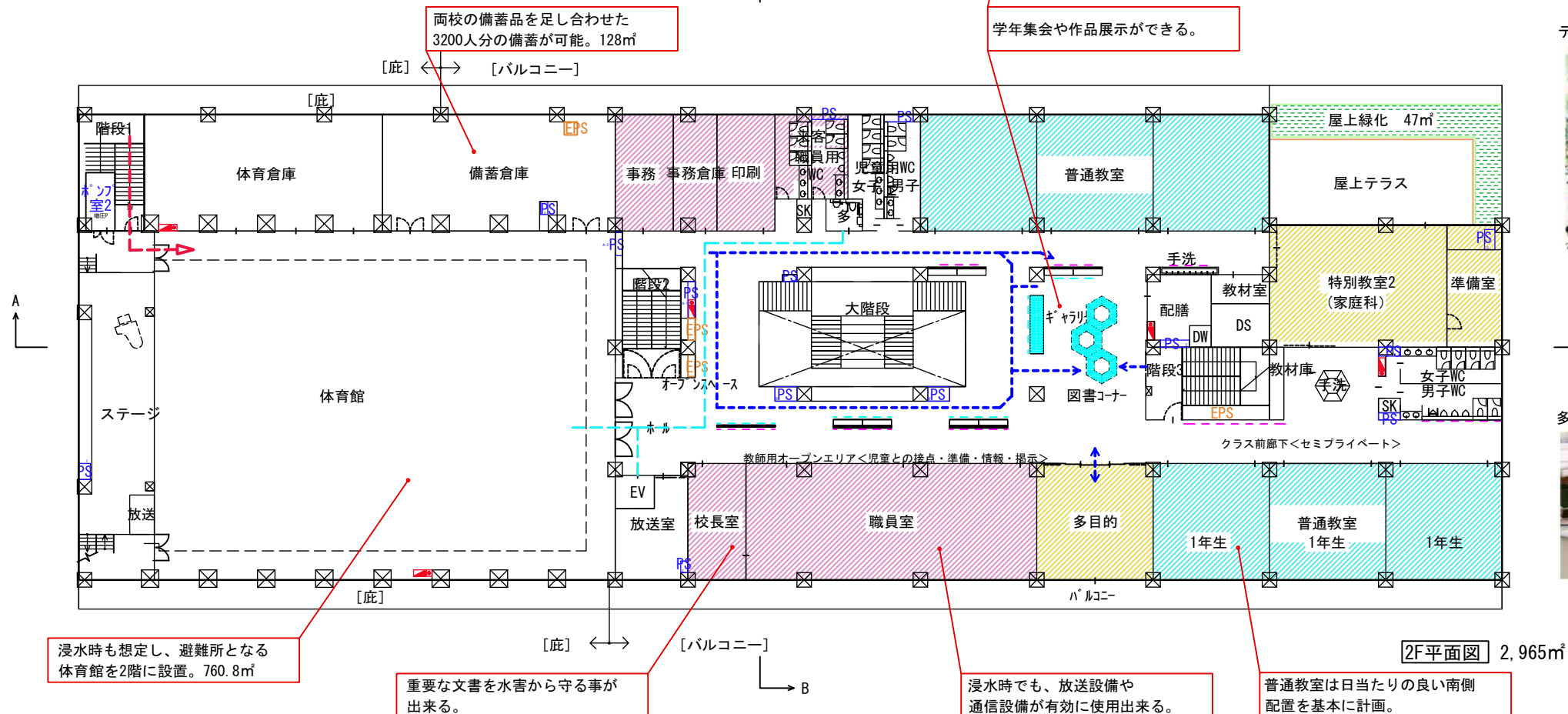
- 普通教室
- 特別教室
- 管理諸室



凡例

---	各クラスの掲示、作品
---	特別教室の教科にちなんだ情報パネルや掲示 (情報・教材パネル)
---	学校作品展 (学校or学年の作品展などの場)
---	展示ルート

中庭のイメージ



テラスでの授業イメージ

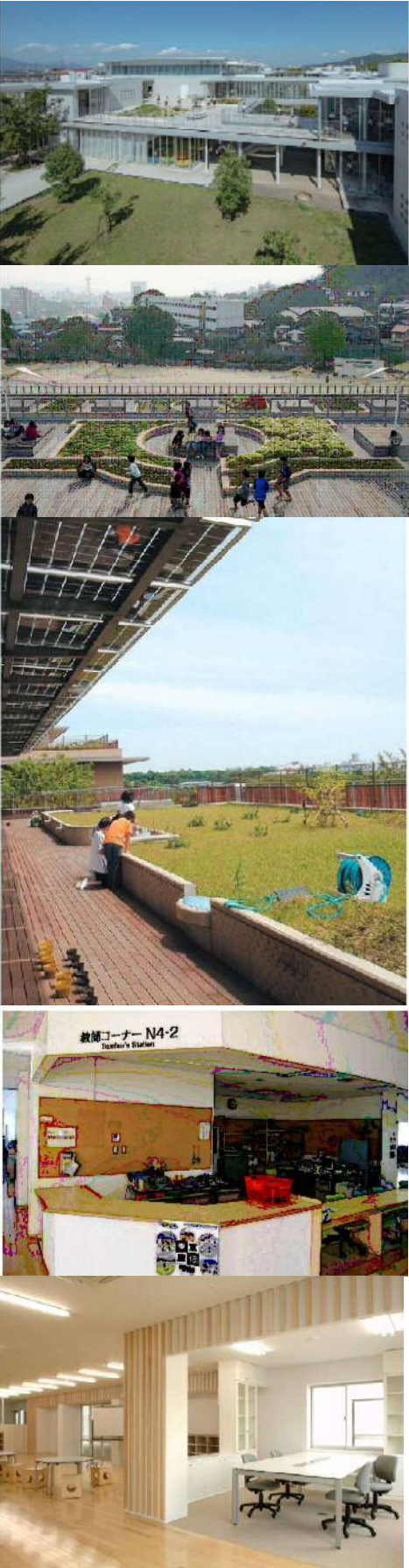


多目的スペースのイメージ

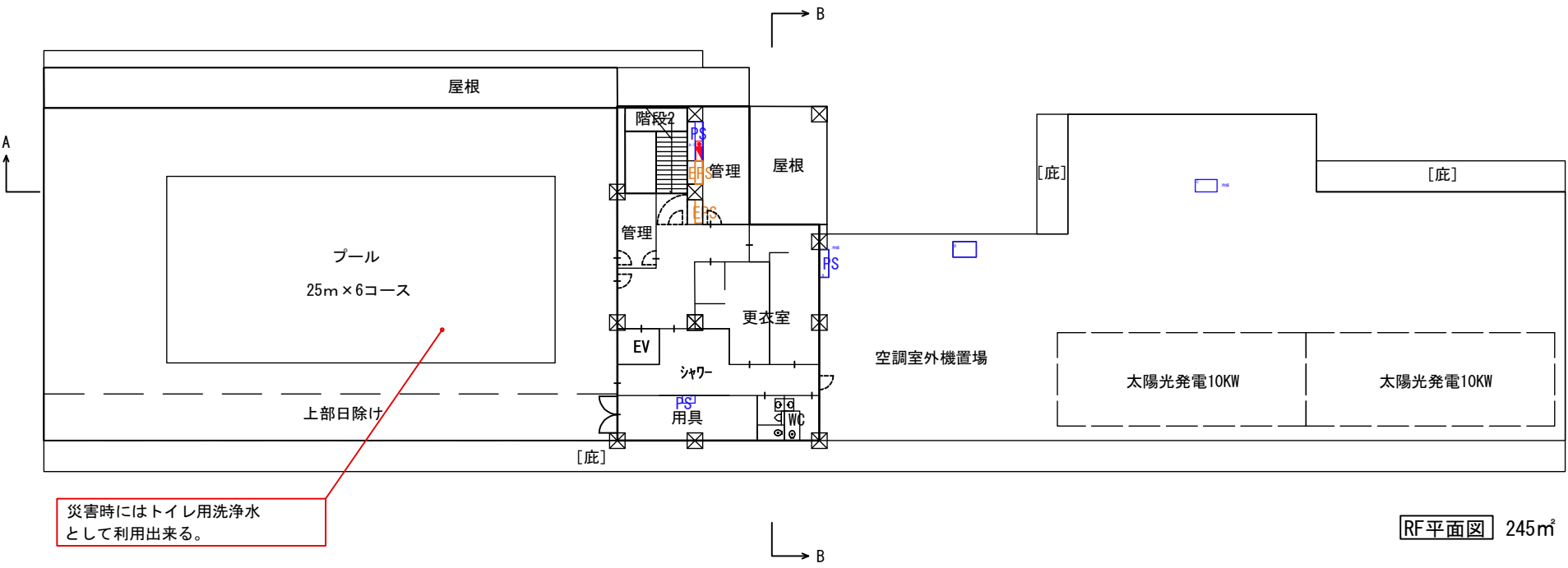




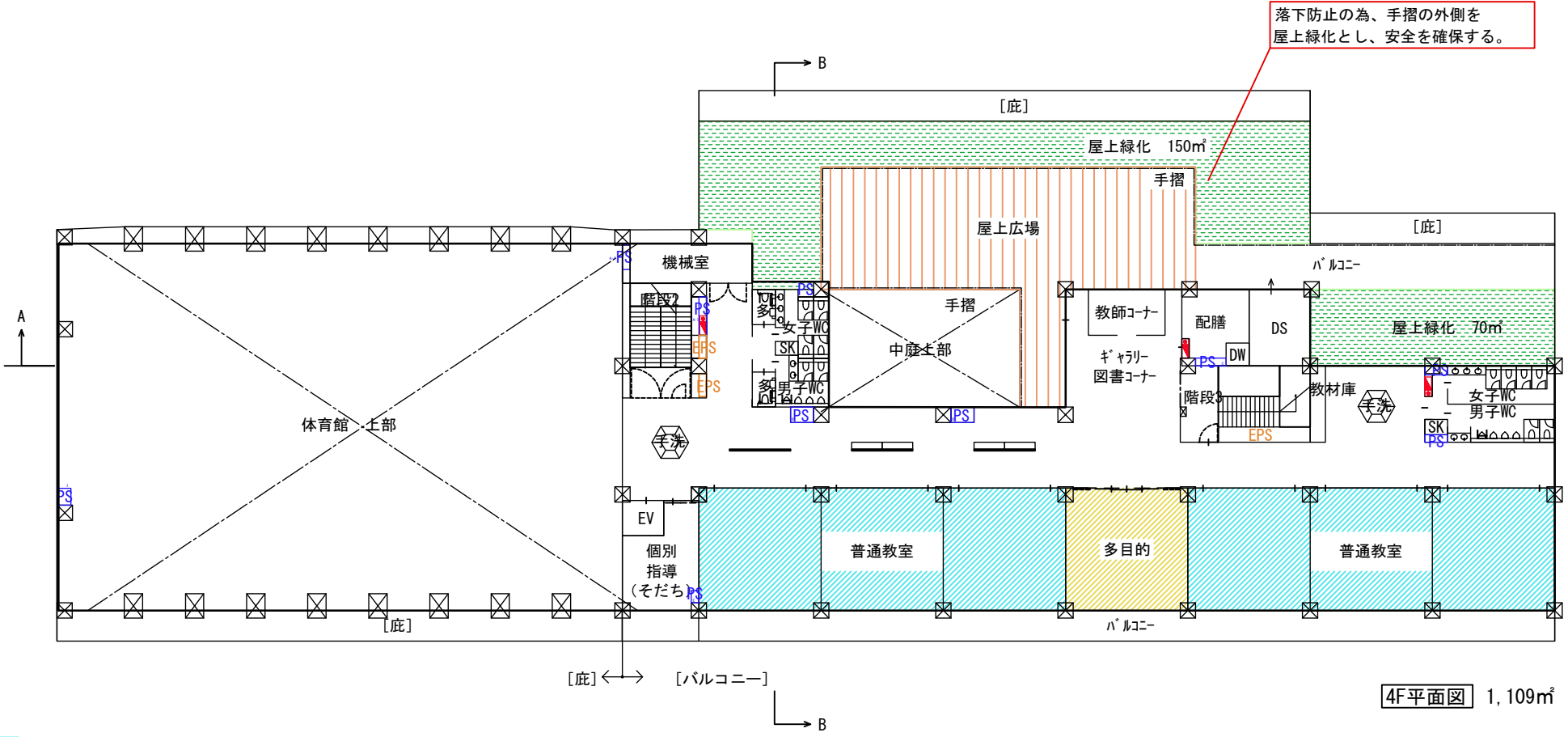
屋上広場イメージ



教師コーナイメージ

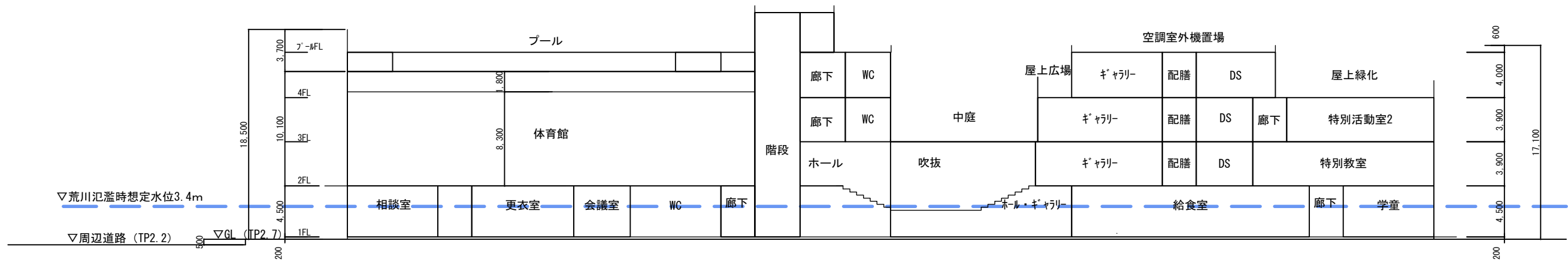


RF平面図 245㎡

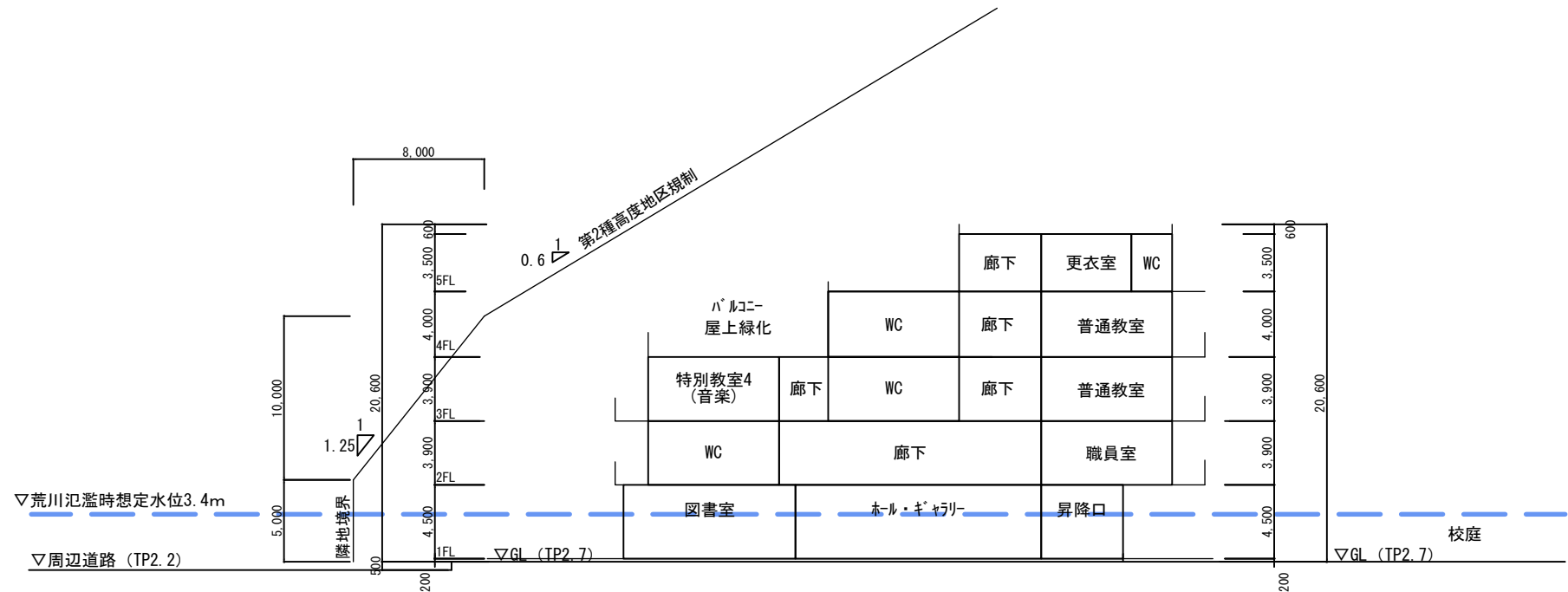


4F平面図 1,109㎡

- 普通教室
- 特別教室
- 管理諸室



A-A 断面図



B-B 断面図

## ◆設計コンセプトキーワード



「出会いと発見の学び舎」

北鹿浜小学校と鹿浜西小学校の2校の統合にあたり、両校の児童、営み、歴史が交わることで新しく、豊かな「出会いと発見」が生まれる学校を目指します。

## ■出会いの象徴となる校舎へのアプローチ空間

- 東西に広がる両校の旧学区区に対し、敷地東西に正門を設け、双方から校舎中央に設けた一斉昇降口のあるセンターホールへと導く計画とします。
- センターホールには大階段を設け、多様な集会や団らん、離合集散の場として計画し、児童の思い出に残る場面をつくります。
- 図書室は学校機能の中心となるメディアセンターとしてセンターホールに連続する配置とします。図書室には畳スペースやソファ、円形の段床空間など多様な読書空間を設け、学年を超えた交流の場（児童・教師・地域）としても機能する計画とします。

## ■多くの仲間との出会いと集いの空間づくり

- 校舎の随所に出会いと集いの機能を設けます。
  - 各階の「多目的スペース」は、学習やグループ活動の場としての利用以外に、異学年とのエリア分けの緩衝空間として、また、ギャラリーと連続性のある空間となり一体利用できる交流の場として計画します。
  - 「視聴覚室（兼ランチルーム）」「特別活動室」は、学習の場としての利用以外に集会・交流の場、休憩や給食時間の団らんの場としても機能する計画とします。
  - 「吹き抜け空間」、「中庭空間」、「屋上広場」では、学年を超えた「出会いと発見」のきっかけとなる場とします。
  - 職員室前の広い廊下は、授業時間以外での教師と児童のコミュニケーションの場となります。

## ■児童の営みや作品の発見の場

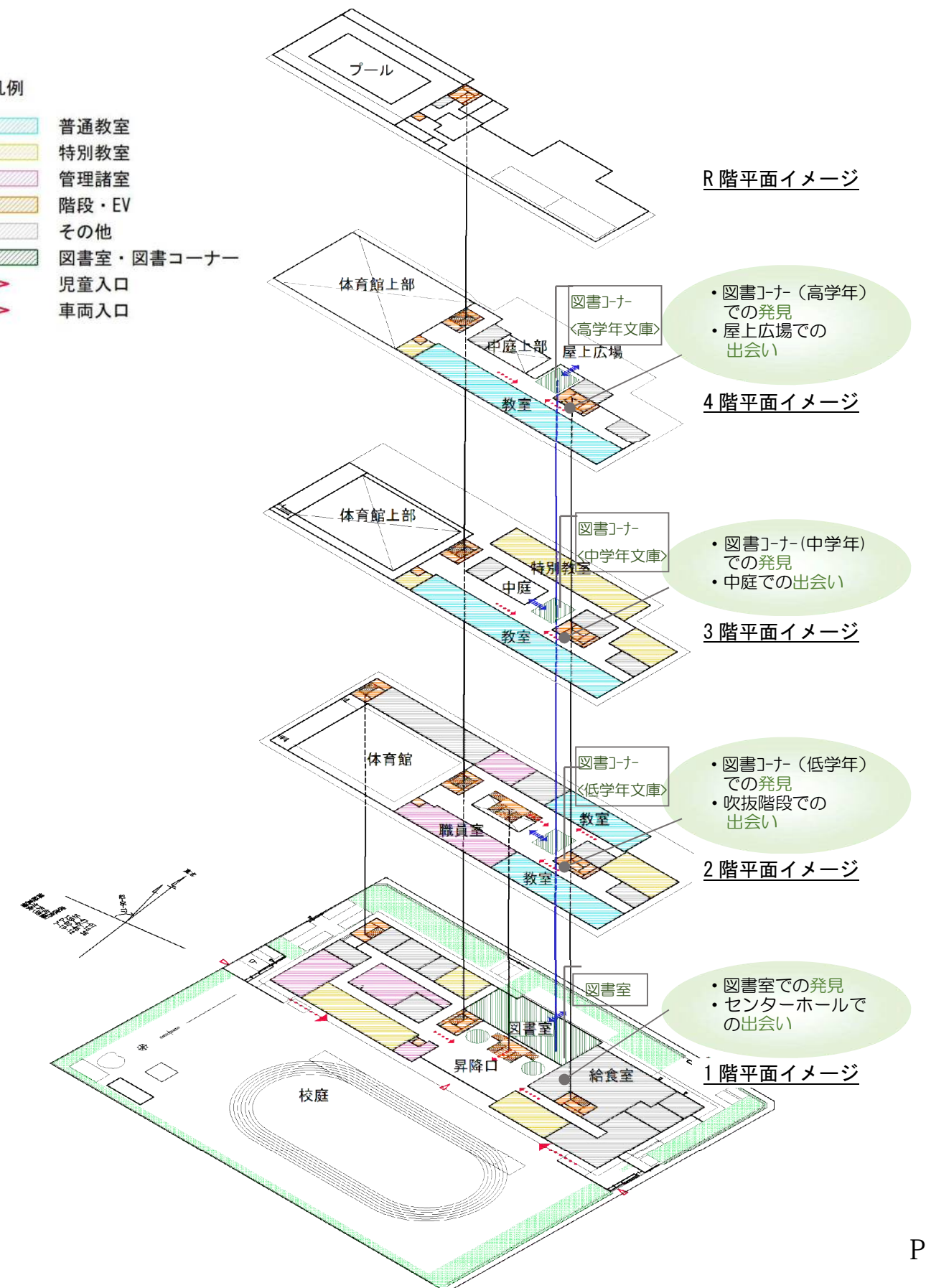
- 普通教室前の共用空間は、各学級の営みや情報を十分に掲示できる空間とし、来校した父兄や関係者へも自然な流れで容易に閲覧できる場とします。
- 吹き抜けや中庭の周りには、全校の作品展示や特別教室教科の情報パネルを設置して、芸術と教科分野に関する発見・発信が可能な回遊動線を計画します。
- 一階の大階段下には、両校の歴史に関する展示を行い、2校のルーツに遭遇できる場とします。

## ■2校の蔵書数を最大限に活用した、校内読書空間の連携

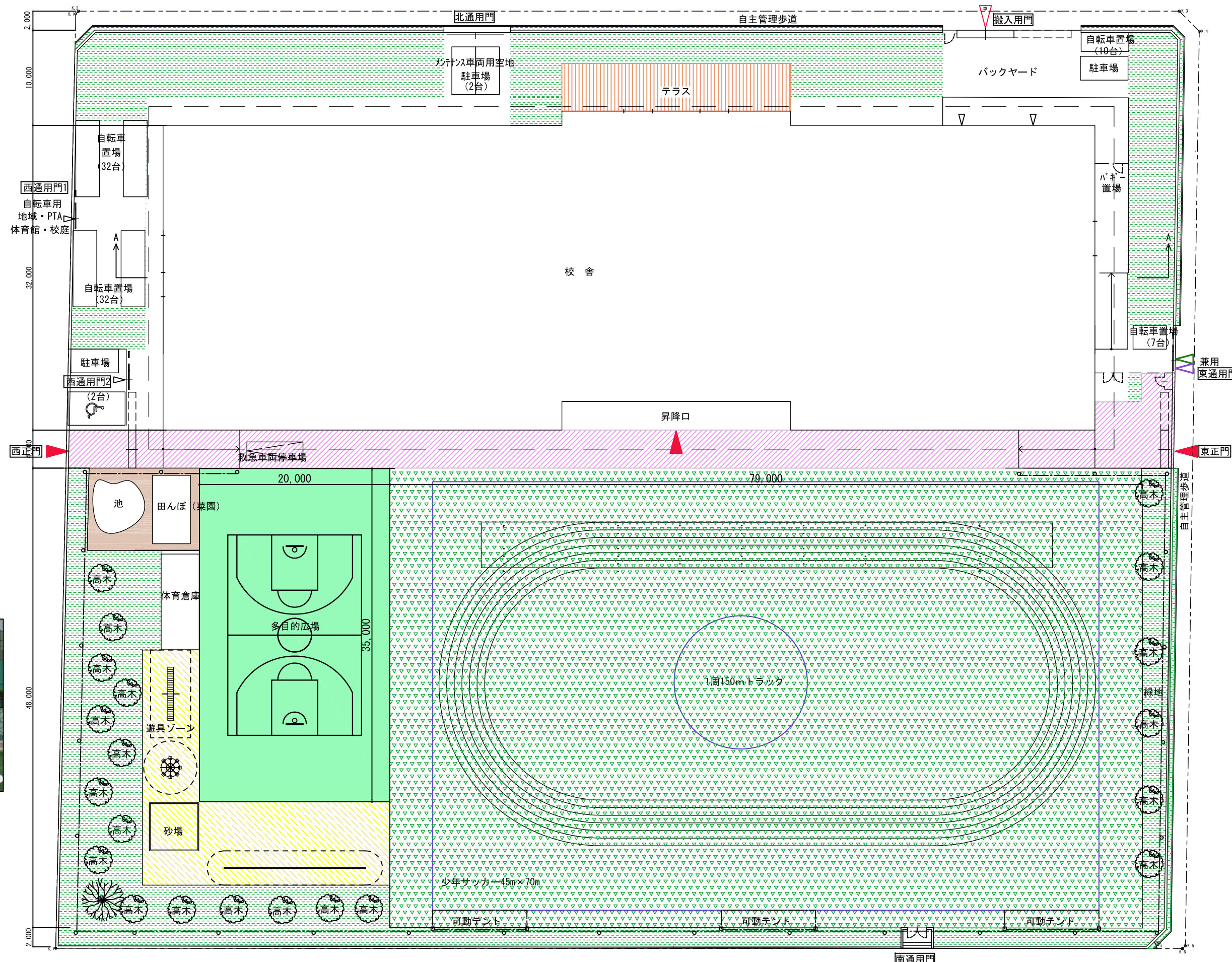
- 統合した学校では、2校の蔵書により全く同じ本や、同種の本が多く存在することとなります。統合小学校では、図書室以外に各階の児童の移動動線上に学年文庫のエリアを設け、異なる場所での閲覧を可能とする計画を行い、保有する全図書を最大限に活用します。
- 児童は、1階図書室以外に2・3・4階の身近な場所にも本を読む環境をもつことで、学校生活の中で自然に多くの本と出会い、読書の機会を増やすことができます。
- 各階の学年文庫エリアは低学年、中学年、高学年用の図書に分けて設置しながら、例えば最寄りの特別教室に因んだ教科や芸術の関連図書を集めるなど特色あるコーナーとすることも考えられます。
- 学年文庫をもつ図書コーナーは、2階では大階段上部の吹き向け、3階では中庭、4階では屋上庭園に連続する配置とし、心地よく気軽に本が読める空間とします。

## 凡例

- 普通教室
- 特別教室
- 管理諸室
- 階段・EV
- その他
- 図書室・図書コーナー
- 児童入口
- 車両入口







可動テント

校庭面積 5,100㎡

- 人工芝 (3,816㎡)
- 舗装 (700㎡)
- ゴムチップ舗装 (322㎡)
- 緑地
- カラーアスファルト舗装
- 土

配置図 1/400

P.7

校庭配置計画図 (案)

北鹿浜小・鹿浜西小統合に伴う設計等業務委託



◆グラウンド舗装比較検討

項目		クレイ系舗装	人工芝	ゴムチップ舗装	ハードコート舗装
イメージ図					
		菜の花中学校参考	鹿浜五色桜小学校参考	亀田小学校参考	足立区参考事例なし
断面図 (標準構成例)					
使用性	粉塵	・粉塵あり	・粉塵の心配がない	・粉塵の心配がない	・粉塵の心配がない
	降雨後等の状況	・降雨後のぬかるみができ、早期に使用開始が困難。 ・冬期に霜等で利用できなくなることがある。	・降雨後のぬかるみがなく、早期に使用開始できる。	・降雨後のぬかるみがなく、早期に使用開始できる。	・降雨後のぬかるみがなく、早期に使用開始できる。
	クッション性	・クッション性はほとんどない。	・クッション性があり、足腰の負担が少ない。	・クッション性があり、足腰の負担が少ない。	・クッション性はほとんどない。
	運動種目	・一般的な運動種目に対応	・サッカー、野球、体育に対応	・遊具廻りの安全対策に対応	・テニス、ハンドボール、バスケットボール、フットサル、一輪車
	利用制限	・降雨後の利用 (乾かないうちに利用すると、凸凹の原因となる) ・車両の乗入可 (ただし降雨後は不可) ・飲食可・火気使用はほぼ問題なし	・車両の乗り入れ禁止 ・人工芝上での飲食は制限がある (水は可) ・火気使用禁止	・車両の乗り入れ禁止 ・ゴムチップ上での飲食は制限がある (水は可) ・火気使用禁止	・車両の乗入可 ・飲食可。(汚してしまった場合は清掃) ・他舗装材に比べ火気使用制限が緩い
維持管理	日常整備	・グラウンド使用後の整備が必要 ・粉塵対策のため、散水が必要	・グラウンド使用後のメンテナンスはなし	・グラウンド使用後のメンテナンスはなし	・グラウンド使用後のメンテナンスはなし。 ・5年～10年で専門業者による表層塗替えが必要。
	耐久性 (更新時期の目安)	人工芝舗装に比べ凸凹ができやすい (10年)	クレイ舗装に比べ凸凹ができにくい (10年)	ゴムチップの摩耗により凸凹ができる (10年)	・表層の摩耗や舗装の沈下により凸凹ができたり、舗装のクラックが生じる可能性がある。 (10年)
総合評価		△	◎	○	○
適用部位		—	グラウンドに使用 (トラック・サッカーコート範囲)	遊具スペース周辺に使用	グラウンドの一部に使用

※人工芝及びゴムチップ舗装と隣接してクレイ系舗装を配置すると、クレイ系舗装が人工芝・ゴムチップ舗装側に流入し、目詰まりを起こす可能性がある。